



CAGLIERO 11

カリエロ



171 2023年 3月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



友人の皆さん、

共感、ゆるし、犠牲はあわれみ深い心からあふれ出ます。教会が母の心で傷ついた人類に手を差し伸べ、悔い改める罪びとを囲いに連れて帰り、抱きしめ、信仰を育むように、神のあわれみ深い愛の受益者である私たちは、罪の傷を負う人々に共感し、あわれみ深くあらなければなりません。

今年、私たち扶助者聖マリア宣教姉妹会は私たちの創立者、尊者ステファノ・フェッランドの司祭叙階100周年、そして来印100周年を祝います。フェッランド神父の司祭職のモットー「十字架にこそ救いあり」は、人々をひきつける宣教活動の原動力になりました。犠牲的な愛といつくしみの象徴である、素朴な十字架にまなざしを注ぎながら、フェッランド神父は、イエスのような心で群れの世話をしました。

私たちも、助けを必要とする人々に、愛といつくしみを惜しみなく注ぐ者となりますように。

■ 扶助者聖マリア宣教姉妹会
MSMHC
総長
シスター・フィロメナ・マシュー

未成年者の側に立つ



「神の助けによって、言葉、行い、思いにおいて貞潔の徳を保てるという堅固な希望を持たない人は、本会で誓願を立てるべきではありません。その人々は、しばしば危険に陥ることになるからです。」

ドン・ボスコは1875年の会憲の最初の草稿に、このように書きました。

この言葉は真実です。なぜなら私たちサレジオ会は、主に未成年者と接触しながら、また、しばしば物質的、精神的に貧しい環境の中で、使命を遂行するからです。そのような環境で**疑義を生じさせることはゆるされません。**

近年、サレジオ修道会はこの分野で多くのことを行ってきました。すべての管区には、虐待が起きたときに報告を受ける窓口が設けられています。どの訴えも真剣に取り上げられ、精査されます。教会法に則った手続きが進められ、有罪と認められた人には教会の刑罰法規が定める制裁を科し、また行政当局に全面的に協力します。真実にたどり着くため、いかなる手段、時間、人も、惜しむことはありませんでした。各管区は、「**未成年者保護の指針**」を作成しています。

しかし、それだけでは十分ではありません。犠牲者に耳を傾け、共に歩み、加害者を起訴するだけでは、十分ではありません。厳しいコントロールを敷くだけでは十分ではありません。この分野における「**予防的な**」文化も必要なのです。予防の鍵は「アシステンツァ」です。私たちサレジオ会員になじみ深い言葉です。そのためには、一方では「目を覚ましていること」、すなわち、さまざまな形で現れる悪の芽に気づき、それを無力化する、注意深い存在になることです。

しかし、「アシステンツァ」は、「積極的に、友情あふれる存在として、兄弟愛をもって子ども・若者たちのただ中に共にいること」でもあります。それによって、**信頼、相互信頼**が可能になります。何よりも、サレジオ会員、共に責任を担う信徒・ライチ、父母、青年リーダーの間に相互の信用、信頼があることです。そのような条件が整ったとき、サレジオの家は「温かく迎える家庭」、開かれた、透明性のある、信頼できる、安全な家になるのです。

■ サレジオ会法務総代理

ピエル=ファウスト・フリゾリ神父, SDB

振り返りと分かち合いのために

■ サレジオの環境 - 「温かく迎える家」を作り上げるために、私は何が出来るだろうか？

■ 自分の管区の「未成年者保護の指針」を知っていますか？

※『サレジオ会日本管区会員の青少年保護の指針』が2012年に施行されています。



アイルランド、サレジオ会の「宣教の次元」



ドミニク、アイルランド管区では、アイルランド人でないサレジオ会員が増えています。その会員たちは、どのようにして、そちらの環境や状況に適応しているのですか？

こちらの環境や状況に適応するため、アイルランドの文化と歴史、カトリック教会の歴史と今の状況、アイルランド人のものの考え方や生活について学びます。そのほかにも、宣教師たちは、新たな現実を心に開き、奉仕職の中で創造力を発揮しなければなりません。また、物事が計画したり期待したりしたようにいかないとき、忍耐が必要です。そして、所属するサレジオ会共同体の支えを必要とします。

神父様は12年前にアイルランドに来られた会員の一人ですね。アイルランドで働き始めた最初のころ、いちばん大変だったのはどのようなことですか？

私はベトナムで哲学課程を終えた後、2011年にアイルランドに来ました。私にとって最も大変だったのは、サレジオの中等学校で実地課程を始めた頃のことです。その学校ではサレジオ会員以外の人たちが働いていました。そのため、私は何をしたらいいのか、そもそも、アイルランドの学校のシステムにどのように関わったらいいのか、わかりませんでした。

神に感謝、ありがたいことに元サレジオ会員の先生がいて、その時期も、またその後も、私をととても助けてくれました。スポーツやアシステンツァの面から学校に関わる可能性を見つけられるように助けてくれました。また、私は機械工学を学んでいたため、一部の学科で生徒を助けることができました。金属加工や木工、製図法などです。

アイルランドで、サレジオ会の存在は将来どのようなものになると思いますか？

アイルランドのサレジオ会は、将来、サレジオの学校や高等学校のチャプレンを務め、小教区の司牧にあたるでしょう。さらに、サレジオ会の働きの方は、将来、地域の小教区や小学校に広がるかもしれません。アイルランドでは司祭・修道者不足が深刻だからです。

ここ数年、私は地域の小学校で、子どもたちの堅信の秘跡の準備を担当しています。私にとっては、福音を子どもたちに伝えるすばらしい機会です。それはまた、子どもたちが数年後、私たちサレジオの学校に来るようになる前に、子どもたちのことを知り、子どもたちにも私のことを知ってもらい、とても良い機会になっています。



ドミニク・ビン・グエン神父、SDB

私はベトナム南部の小さな町で育ちました。その町はサレジオ会の神学院から2キロのところにあります。15歳のときにサレジオ会員となる道を歩みはじめ、**修練期**に宣教師たちと出会い、宣教師になりたいという望みが生まれました。

ポール・ビン・トラン（共に歩んできた仲間）と私は、**2011年にアイルランドに派遣**されました。ポール神父はセルブリッジ・サレジオ高校で、私は**リメリック**のサレジオ高校でチャプレンを務めています。



虐待の6つの分類

私たちがすべての研修で用いる虐待の共通定義は、「人が、力と他者に対するコントロールを獲得、維持するために行使する行動様式」というものです。この定義の留意すべき点は：行動の様式、パターンがあるということ、言い換えると、その行動が一回だけではないということです。

- 身体的
- 精神的／心理的
- 性的
- 経済的
- 言葉による／感情的
- 文化／アイデンティティーに対する



出典：REACH <https://reachma.org/>

3月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

虐待の被害者のために

アイルランドの司祭、修道者による虐待の被害者のために。

教会の中の人によって危害を受けた人々のために祈ります。
その人々が、自らの痛みと苦しみへの具体的な応答を、教会そのものの中に見いだしますように。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

アイルランドの
ために

